

「日本一のしばふ校庭」なんつる しばふだいひゃっか 芝生大百科 3年生用

年 組 氏 名

しばふ校庭のひみつ

平成24年11月25日、Jリーグ初代チェアマンで日本サッカー協会最高顧問（きょうかいさいこうこもん）の川淵三郎（かわぶち さぶろう）さんが、なんつるに来ました。川淵さんはサッカーとかかわりの深いしばふのグラウンドを日本中に広める仕事もしているので、日本中のしばふ校庭を見ている。なんつるの広く青々とした校庭を見て、川淵さんは、すぐに「ここは、日本一のしばふ校庭だ！」とおっしゃいました。

なんつるのしばふ校庭は、どんなところがすばらしいのでしょうか。みなさんは知っていますか？

5000㎡の全面校庭しばふ

多くの学校は、校庭全部ではなく、校庭の一部や中庭だけをしばふにしているところが多いのです。なんつるの校庭は、学どうの前に土の所をのこしていますが、のこりのほとんどがしばふです。その広さは5千㎡（たて50m、横100m位の広さ）で東京都内で一番広いしばふ校庭の1つです。きょうぎ場で使うティフトンというやわらかい夏しばを使っている校庭では都内で1番の広さです。すばらしい！

Gネット

日本一のしばふ校庭を守っているのは、南鶴牧（つるまき）小学校グリーンネットワーク委員会（りやくして「Gネット」）のみなさんです。Gネットはいくつかのグループの集まりです。多摩（たま）ボーイズ、鶴牧サッカークラブ、放か後子ども教室、父母と教しょく員の会、おやじの会、花だんをきれいにしてくださっているひまわり、南鶴牧小学校。これらの代表の方がしばふを守るための活動をしています。とても多くの方がしばふを守ってくださっているのです。

Gネットには東京都がみとめた「しばふ校庭の匠（たくみ）」が2人いらっしゃいます。放か後教室でしどうしてくださっている吉瀬（よしせ）Gネット委員長と鶴牧サッカークラブの石神（いしがみ）代表です。なんつるは匠が2人もいる都内ではじめての学校なのです。すばらしい！

土の部分のをこしている

なんつるの校庭は、わざと土の部分のをこしています。冬しばのたねをまいた後、しばふが使えなくなったときでも校庭が使えるようにしたり、しばふの上ではできないなわとびなどの運動ができるようにしたりしています。すばらしい！

1年中緑のしばふ やわらかいしばふ

なんつるの夏しばは、ティフトンというしゅるいです。やわらかくて気持ちがいいですね。ティフトンはきょうぎ場用のしばふです。鶴牧東公園や鶴牧西公園にあるノシバのようにかたくありません。だから、体がこすれてもいたくありません。ティフトンは夏の間は緑色ですが、冬になると葉がかれて茶色になってしまいます。（根は生きています。）では、どうしてなんつるの校庭は冬も緑色なのでしょう。それは、秋に冬しばのたねをまくからです。冬しばはペレニアルライグラスというしゅるいで、冬でも葉が緑色なのです。なんつるの校庭では、夏しばの上に冬しばを育てているので1年中緑色の校庭なのです。すばらしい！

すなを20cmの深さまで入れてある

しばふは水はけのいい場所がすきです。ずっと水があってじめじめしている所だと、根がくさってしまうからです。しばふになる前のなんつるの校庭は、一度雨がふると、ずっと水たまりがなくなるので何日も使えなくなってしまうような校庭でした。（今のてつぼうの下のような感じです。）そこで、しばふにするときに校庭の土をほり下げ、すなを20cmしきつめました。すなの下には、はい水かんがうめてあり、すなにしみこんだ水が、はい水かんを通過して校庭の外に出るようにしました。そのため、少しぐらい雨がふっても水たまりができることはありません。雨がやめば、すぐに使える校庭になりました。すばらしい！

しばちゅん

平成19年に生まれた南鶴牧小学校のキャラクターである「ちゅんた」の弟として、平成23年にしばふおうえんキャラクターとして生まれたのが「しばちゅん」です。当時、たくさんのおうぼ作品の中から5年生男子の作品が選ばれて、図画工作の先生が仕上げをしました。キャラクターができた後、名前をぼしゅうしました。多くの子どもからのとうひょうで「しばちゅん」に決まりました。しばちゅんは、平成23年の東京都校庭芝生活動コンテストで、教しよく員の部マスコットキャラクター部門で二番目のゆうしゅうしょうをもらいました。すばらしい！

かりとったしばふは、しぜんに分かいさせる

多くの学校は、かりとったしばふはゴミぶくろに入れてゴミしゅう集車に持っていってもらいます。お金もかかるし、運ぶための車のガソリンや、もやすためのねんりょうもかかります。でも、なんつるでは、かったしばふをビオトープやプール、体育館のおくや、つるまき農園のおくに、うすく広くまきます。(ぶあつくまいてはいけません。) しばらくおいておけば、土にすむ小さな生き物がしばふを分かいますので、かりとったしばふが見えなくなってしまいます。とってもエコです。すばらしい！

圃場(ほじょう)

校庭の南東のはしにある百葉ばこの近くにしばふが植えてある場所があります。ここは、校庭と同じしばふを育てているしばふの畑です。校庭のしばふがすりきれたりして、はげてしまったとき、この圃場のしばふを切り取って校庭に植えるのです。このように、他の場所からしばふを切り取って校庭のしばふを直すことを「補植(ほしょく)」とか「移植(いしょく)」といいます。直線で切り取るターフカッターを使って長方形に切り取ったり、丸く切り取るホールカッターを使って切り取ったりして使います。ホールカッターはゴルフのホール(あな)をつくるためのカッターです。切り取った後はどうなるのか？・・・切り取った後をすなでうめておいてやれば、しばらくすると、しばふがのびてきて、また、元通りのしばふになります。しばふってすばらしい！

スプリンクラー

なんつるのしばふ校庭は、とっても広いので、じょうろやホースで水をまいていたら大へんです。そこで、なんつるの校庭には自動でたくさん水をまくことができるスプリンクラーがついています。校庭のまん中に1つ、四方に7つの全部で8台。15分で1しゅうします。1回まくと、全部で17トン(1Lの牛にゆうパック1万7千本分)の水を使います。学校全体で使う水道のりょうは、夏でも1日に13トンくらいなので、スプリンクラーがまく水のりょうの多さが分かります。スプリンクラーはたくさん水を使うので、水道を使うともったいないですね。そこで、なんつるでは、スプリンクラーで使う水は雨水を使っています。雨水がなくなったときだけ水道を使うようにしているのです。エコですね。すばらしい！

100トンの雨水タンク

スプリンクラーで使う雨水は、しばふそうこの前の地面の下にためられています。校しゃの屋上の東がわ半分と体育館の屋根にふった雨水を集めています。ためられるりょうは100トン(1Lの牛にゆうパック10万本分)。雨水を使うことで、水道の使用りょうをせつやくしています。他の学校にはあまりないせつです。すばらしい！

しばかり君 1号、2号・・・

しばふのそうこには、赤い車が入っています。これは、人が乗って動かすしばかりきです。もう一台エンジンで刃(は)が動く手おしのしばかりきもあります。でも、ふだん使っているのは、人が力を入れておすことでしばをかることができる手おし式のしばかりきです。手おし式のしばかりきは全部で30台もあって、しばかり君1号～しばかり君30号の名前がついています。また、そうこの中にはスプリンクラーのポンプもあって、ここから水を送り出しています。他にも、ひりょうまきき、工事用のーりん車、落ち葉をふきとばすブローアー、運動会で使うペイント式のラインカー、ざっ草ぬき、バケツ、スコップ、竹ぼうき、くま手、くい、トンカチなどいろんな道具が入っています。学校やGネットで力を合わせてそろえてきました。すばらしい！

しばふは夏すずしい！ しばふはほこりが立たない！ しばふは霜(しも)でぐちゃぐちゃにならない！

しばふの校庭は、土の校庭とくらべると、すばらしいところがたくさんあります。みなさんも、なんつるの日本一のしばふ校庭を大切に使ってくださいね。